

コーパスからみた類義語動詞：「ねじる」と「ひねる」*

杉 本 武

1. はじめに

「ねじる」と「ひねる」は、対象に何らかの回転を与えるという点では共通した意味を持つ。

- (1) 「上体をあまりひねらず，肩甲骨と鎖骨の線だけをねじることで，視線のぶれを抑えている」と分析する。(毎日04/10/3朝刊)

この一方で，言い換えのできない用例もある。

- (2) a. 同じ環境を好む植物を集めて受け皿に乗せたら，袋の上端をねじって口をふさぎ，クリップでスタンドに固定して出来上がり。(毎日04/11/5朝刊)

b. ??袋の上端をひねって口をふさぎ，

- (3) a. 「後方伸身宙返り3回ひねり下り」は両足をピンと伸ばした体を，きりもみのように180度，高速でひねってマットに下り立つ。(毎日01/12/7夕刊)

b. *きりもみのように180度，高速でねじってマットに下り立つ。

本稿では，コーパスを用いて「ねじる」と「ひねる」の用法，意味を分析，記述する。これは，大規模なコーパスをみることによって，語の用法がどのような広がりを見せているか，あるいは従来見落とされていた用法や拡張された用法が存在するかどうか検証できるからである。本稿では，コーパスとして，毎日新聞15年分，およびYahoo!知恵袋約1年半分の書き込みのデータを用いる¹。これは，新聞が規範意識の高いテキストであるのに対して，Yahoo!知恵袋が規範意識の低いテキストであり，新聞にはみられない用例がみられる可能性があると考えたものである。この点で，本稿は，類義語の意味分析にコーパスを用いる一つの試みとして位置づけられよう。

2. 辞書、先行研究の記述

まず、辞書において、両語がどのように記述されているのかを見る。ここでは、特に用法の広がりを見るために、細かくブランチが分けられている『明鏡国語辞典』の記述を示すことにする（語法、用例等は省略する）。

ねじ・る【振る・捻る・拗る】

- ①細長いものの両端を持って互いに逆の方向に回す。ねじれた状態にする。
- ②固くしまった物の一部を右または左に回す。
- ③体の一部に力を加えて右または左に回す。また、体の一部をつかんで無理に一方向へ回す。
- ④体の筋をちがえる。捻挫する。

ひね・る【振る・拵る・燃る】

- ①指先でつまんで回す。軽くねじる。
- ②体の一部を回転させて向きを変える。
- ③首をしめて殺す。
- ④《「頭を一」の形で》考えをめぐらす。
- ⑤《「首を一」の形で》考え込む。また、疑わしく思う。首をかしげる。
- ⑥あれこれ考えて俳句・歌や名案などを作り出す。ひねり出す。
- ⑦あれこれ考えて普通とは違ったものを作り出す。趣向をこらす。
- ⑧簡単に負かす。
- ⑨〔古風な言い方で〕金銭を紙に包んで、おひねりを作る。

「ひねる」の④～⑧は、抽象的用法であるが、一方、「ねじる」の場合、物理的な力を加えるような具体的用法しかないことが特徴である。また、両語の①を比較すると、「ひねる」において、「軽くねじる」とされているように、同様な動作を表しながら、力の強度が違うことが示されている。

「ねじる」「ひねる」は、「よじる」とともに柴田(編)(1976)で分析されている。柴田(編)(1976:131)は、「ねじる」と「ひねる」の意味の共通点として、次の三つを挙げている。

- (1) 指先または手を使って
- (2) ある対象物を
- (3) 回転させる

さらに、具体的な議論は次節で適宜示すが、「ねじる」の特徴として次のものを挙げている（同上書：133f.）。

- ①何回もくり返すことがある
- ②無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える
- ③痕跡を残す

一方、「ひねる」については、次のものを挙げている（同上書：135）。

- ④ちょっとしたことをする。

「ねじる」の②と「ひねる」の④の対比は、『明鏡 国語辞典』でもふれた力の強度に関するものであると言える。

3. 分析

3.1. 動作の様態

柴田(編)(1976)では、2.でも示したように、2語の意味の共通点として「指先または手を使って」というものを挙げている。しかし、次のように、「ねじる」でも「ひねる」でも、主体が自ら自分の体の一部（身体部位）を回転させることを表すことができ、この場合、手段は必要とされない。

- (4) 彼女は最終場面で、少し前かがみになり、後ろ姿を客席に向けて天までのびる長い女坂を登り、幕切れに体をねじって横顔を見せる。(毎日97/9/24夕刊)

- (5) しかし、八日のエキシビジョン大会で右足首をひねっており、回復具合が気になる。(毎日93/1/18朝刊)

これらは再帰的な動作であり、このような場合に一般的なものと考えられるだろう。

- (6) a. 太郎は左手でパイプを曲げた。
- b. *太郎は左手で体を曲げた。
- c. 太郎は体を曲げた。

(6b)は、再帰的な解釈としては不適格となる。

先の(4)と(5)は、再帰的であるという点は共通するものの、違いもある。「ねじる」の場合、(4)のような意図的な動作に用いられ、「ひねる」の場合、(5)のような非意図的な動作に用いられていることである。「ねじる」の場合も、『明鏡 国語辞典』に「④体の筋をちがえる。捻挫する」の記述があるように、非意図的な動作も表し得るであろう。用例としては、次の文が挙げられている。

- (7) 足首をねじって傷める。

しかし、このような文も不自然ではないものの、「ひねる」の方が自然に思わ

れる。

このような非意図的に体などを「ねじっ」たり「ひねっ」たりして、けがなどをすることを表す用例は、「ねじる」より「ひねる」の方がむしろ多い。次は、「ひねる」の用例である（以下、用例の一部）。

- (8) 大東大のラトウ主将は、グルグル巻きのテーピングが痛々しい左腕と、ひねって痛めていた左足をさすりながら、ホッとした表情を見せた。（毎日95/12/3朝刊）
- (9) セ大阪の大久保嘉人選手は19日の横浜マ戦（長居）で、シュートしたときに左足首内側をひねって痛めた。（毎日01/5/20朝刊）
- (10) スキーで転倒し、左ひざをしこたまひねって歩行さえママならぬ状態になったのだ。（毎日02/3/28夕刊）
- (11) 後半30分過ぎに左ひざをひねってベンチに下がったが、痛みより試合運びの方が気掛かりのようだった。（毎日02/5/3朝刊）
- (12) しかし、八日のエキシビジョン大会で右足首をひねっており、回復具合が気になる。（毎日93/1/18朝刊）
- (13) メディーナは五回、一塁走者として頭から帰塁した際、右肩をひねって痛めた。（毎日93/4/15朝刊）
- (14) 近鉄のレイノルズ外野手(32)は17日の対ダイエー1回戦（福岡ドーム）の九回裏、吉永選手の右中間への打球を捕ろうとジャンプして着地した際に、左足首をひねって退場した。（毎日93/4/18朝刊）
- (15) 力士の肩の脱きゅうは、元横綱千代の富士のように強引に上手投げを打った時に起こすのが一般的だが、武双山の場合は肩の筋肉が軟らかすぎるため、相手に差された時に一般の力士以上に肩が上がって、変な形にひねってしまうことが多い。（毎日95/5/3朝刊）
- (16) また、首をひねって一時は手足がマヒした木下を治療、和光市の大黒柱・入来の血行障害を治療したのも増島さんで、六回に救援登板すると「ちゃんと、アフターケアしているから大丈夫ですよ」。（毎日96/9/2朝刊）
- (17) 「足首を少しひねって集中力を欠いてしまった」と自身のサーブだったこのゲームを落とすなど、1-3とリードを許した。（毎日05/5/27朝刊）
- (18) バルセロナ入りして初練習の二十日に左ひざをひねって痛め、3日間の休養の後、練習を再開。（毎日92/8/1夕刊）
- (19) そのうえ、エース斎藤が足を痛めて戦線離脱し、守りのかなめ、川相

も腰をひねって欠場。(毎日92/7/15朝刊)

一方、「ねじる」の用例は、次のように、わずかしみられない。

(20) 練習中に足首をねじって試合に出られない阿部慎、寝冷えで発熱し試合も見ずに引き揚げた山田など、けが人、病人によるコマ不足という状況も、ムードを沈滞させたか。(毎日99/9/6朝刊)

(21) 73歳の時、ターンの際にねじって痛めた右ひざ半月板の手術を受けた。
(毎日99/9/9朝刊)

(20)(21)の例では、「ねじる」が使われているが、「ひねる」の方がより自然であろう。

身体部位をヲ格にとる用法では、「ねじる」と「ひねる」とで他にも違いがある。それは、他者の身体部位をとるもの(再帰的ではない場合)が、ほぼ「ねじる」に限られることである。

(22) 調べでは、若月容疑者は、8月26日午前2時ごろ、当時交際していた人間市内に住む無職の女性(19)のアパートで、女性と一緒に寝ていた長男(1歳3カ月)の左腕をねじって骨折させ6週間のけがを負わせた疑い。(毎日01/12/05(朝)[社])

(23) ガキ大将を中心に数人が裏の浜辺でワイワイ言いながら首をねじって絞め、羽をむしり上げ、裸になった鶏を地面に置いたところ、死んでいはずの鶏が突然ガバッと立ち上がり、首が折れて垂れ下がったまま走って逃げ出したそうです。(毎日01/12/9朝刊)

(24) 生後7カ月の二男の右腕をねじって骨折させたとして傷害罪に問われた沖縄県内の母親(22)に対し、那覇地裁は28日、無罪(求刑懲役1年6月)を言い渡した。(毎日06/3/1朝刊)

(25) 母親は04年11月29日に自宅で二男の右腕をねじって骨折させたとして翌05年1月に逮捕、起訴された。(毎日06/3/1朝刊)

『明鏡 国語辞典』では、「ひねる」に関しても「③首をしめて殺す」という記述があり、次のような「ひねる」の用例もあるが、若干不自然であろう。

(26) 新実被告が両手で首をひねって殺し、護摩壇で灰になるまで十数時間にわたって焼き続けた。(毎日96/6/20夕刊)

柴田(1976)では、「ねじる」について「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」という特徴を挙げており、これと関係するものであると考えられる。しかしながら、次のように、「ねじる」が身体部位²をヲ格にとるものもあるが、これらは、「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加

える」とは言えない。

- (27) 左後ろに首をねじって数秒間、家族が座る傍聴席を見つめ、2度、会釈するようにうなずいた。(毎日01/3/6夕刊)
- (28) 一瞬理解しがたく、首をねじって確認作業をしてしまいました。(毎日01/6/23夕刊)
- (29) (日本兵に骨を砕かれた左手を右手でねじって見せると、三六〇度回った) ◆南京大虐殺事件 (毎日94/8/24夕刊)
- (30) しかも、手のひらが上を向くように、うまく腕をねじってです。(毎日95/6/5夕刊)
- (31) 練習中に足首をねじって試合に出られない阿部慎、寝冷えで発熱し試合も見ずに引き揚げた山田など、けが人、病人によるコマ不足という状況も、ムードを沈滞させたか。(毎日99/9/6朝刊)
- (32) 体をねじって鉄の足を振り上げ、それを康さんが頭に受け、卒倒したことが何度もあった。(毎日00/8/5夕刊)
- (33) 手綱から片手を離して大きく回したり、両手を離して広げ、体をねじってバランスが取れるようになると、次は速足の練習。(毎日95/7/28夕刊)
- (34) 道路地図体をねじって見てる人 (毎日95/8/25朝刊)
- (35) 彼女は最終場面で、少し前かがみになり、後ろ姿を客席に向けて天までのびる長い女坂を登り、幕切れに体をねじって横顔を見せる。(毎日97/9/24夕刊)
- (36) 次はその状態で身体をねじってあげます。(毎日99/6/6朝刊)
- (37) ついさっきまでは枯れ枝のような体をねじって、「ヒュー、ヒュー」と泣いていたのに……。 (毎日03/4/23朝刊)
- (38) ホームベースの投手側のラインに対して、昨年までは両肩の線が125度になるまで体をねじっていたが、今年は110度ほどで、15度ほどの違いが出ている。(毎日04/10/3朝刊)

これらは、直観的には「ひねる」の方が自然であると思われるが³⁾、このような用例が存在することから、「ねじる」に「対象物をこわすほどの力を加える」という特徴を与えることは強すぎると考えられる。

また、柴田(編)(1976:135)は、「ねじる」が「手でする、力のいる行為である」のに対して、「ひねる」は「むしろ指先でできるような行為である」とし、「ヒネリゴマ(に)しましょう」のような表現を取り上げ、これは「指先

で、ちょっと」ヒネリつぶすことであるとしている。ここから、「ひねる」には「④ちょっとしたことをする」という特徴があるとし、さらに次のような用法を挙げている（同上書：135f）。

(39) a. 俳句をヒネル。

b. ×俳句をネジル。

(40) a. ヒネッタ問題を出す。

b. ×ネジッタ問題を出す。

確かに、これらの用例は「指先でできる」「ちょっとしたこと」ではあるが、その一方で、(8)～(19)のような、けがをするという文脈で用いられた用例の説明はできなくなる。

ここで注目したいのは、先の(4)と(5)のような現象である。次に再掲する。

(41) 彼女は最終場面で、少し前かがみになり、後ろ姿を客席に向けて天までのびる長い女坂を登り、幕切れに体をねじって横顔を見せる。(毎日97/9/24夕刊)

(42) しかし、八日のエキシビション大会で右足首をひねっており、回復具合が気になる。(毎日93/1/18朝刊)

先に述べたように、(41)の「ねじる」が意図的な行為を表すのに対して、(42)の「ひねる」は非意図的な行為を表す。このことから、「ねじる」の場合は、「意図的な行為」であることが陽に指定されているが、「ひねる」の場合はそうではないと仮定することができる。なお、これは、「ひねる」が意図的な行為を表わさないということを意味するものではない。単に意図性に関しては中立であるということである。

意図的に力を加えるのであれば、実際上、加えられる力は大きなものになり、結果的に「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」ことになることが多くなるであろう。つまり、「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」ということは、語自体の特徴ではなく、「意図的に力を加える」ということから、現実世界の出来事のありさまとして帰結するものであると考えられる。

以上の点から、「ねじる」には「対象に意図的に力を加える」というような特徴を、「ひねる」には単に「対象に力を加える」というような特徴を与えるだけで十分であると考えられる。

3.2. 回転方向

宮島 (1972:94) は、「回転」のしかたの点から、「まわす」と「ひねる」「ねじる」「よじる」を比較し、「ひねる」「ねじる」「よじる」などでは、一部分が回転するだけで、ほかの部分は回転しない」としている。しかし、回転の様態について、これだけで十分であろうか。

「ひねる」には、次のような用法がある。

- (43) 例えば、発進前の操作の正しい手順は (1)シートベルトをかける (2) フットブレーキを踏む (3)イグニッションキーをひねってエンジンを始動する (4)ギアを入れる (5)サイドブレーキを下ろす、である。(毎日04/4/7朝刊)

これは、次のように「ねじる」では言い換えにくい。

- (44)??イグニッションキーをねじってエンジンを始動する

これは、「イグニッションキー」の場合、柴田(編)(1976)に従えば、「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」のではないからであると考えられそうである。また、次のような用例もみられる。

- (45) 同社によると、金属キャップをねじって開ける際、瓶の口のガラスが欠ける恐れがあるという。(毎日01/4/7朝刊)

これは、対象が壊れるという文脈であり、前項の議論に反し、「ねじる」には、「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」という特徴があるとする根拠となりそうである。また、ペットボトルのキャップのように、最初の開栓時に「ねじ切る」ような場合、最初は「ねじっ」て開けても、次からは「ひねっ」て開けるようにも思われる。なお、同じ文脈で「ひねる」も使えるであろう。

- (46) 同社によると、金属キャップをひねって開ける際、瓶の口のガラスが欠ける恐れがあるという。

次のような用例もある。

- (47) 「駐車違反の車を持ち上げて移動させた」「リンゴを片手で握りつぶし、ジュースをしぼりだした」「水道の蛇口をひねって切った」等々……。 (毎日94/5/4朝刊)

同様に栓のようなものを対象にとった用例として、次のようなものがあるが、「ひねる」は使えても、「ねじる」は使いにくい。

- (48) a. しかし、蛇口をひねって水を飲む時、あるいは風呂につかる時、たまには水道料金がなぜ上がり続けているのか、思いをめぐらせてみ

てほしい。(毎日02/1/15朝刊)

- b. ??しかし、蛇口をねじって水を飲む時、あるいは風呂につかる時、たまには水道料金がなぜ上がり続けているのか、思いをめぐらせてみてほしい。

これらのような用例は、どのように説明したらよいのであろうか。

ここで注目されるのは、次のような用例である。これらの「ねじる」の用例は、「ひねる」で言い換えることができない。

- (49) 長さ60センチほどの糸の両端に、小さな石ころを紙に包み、ねじってオモリにした。(毎日01/8/3朝刊)
- (50) 生鮭1枚、粒マスタード小さじ1/2、ホタテ貝柱1個分、生鮭1枚の順に3層に重ね、空気が入らないように注意しながら、きつく巻き上げ、両端をねじってしばる。(毎日01/9/16朝刊)
- (51) 発火した24件のうち22件は、本体の電源電線と、屋内電線同士を手でねじって接続させた状態だった。(毎日06/7/1朝刊)
- (52) 銜は細い鉄板をねじって棒状に加工。(毎日06/1/12朝刊)
- (53) 同じ環境を好む植物を集めて受け皿に乗せたら、袋の上端をねじって口をふさぎ、クリップでスタンドに固定して出来上がり。(毎日04/11/5朝刊)

これらの用例の対象に共通しているのは、回転軸のようなものが存在しないことである。このことから、「ひねる」の場合、「対象の回転軸に沿って回転させる」のであり、一方、「ねじる」の場合、そのような回転軸が必要ないと考えられる。

この点から、次のような用例の解釈の違いも説明できる。

- (54) a. 道路地図体をねじって見てる人(毎日95/8/25朝刊)
b. ?道路地図体をひねって見てる人

(54 a) の自然な解釈は、人が体を横に折り曲げて地図の上下の方位が変わるようにして見ているというものであろう。一方、(54 b) では、そのような解釈はしにくく、体を左右に回転させて見るような状況になり、文脈(地図の上下と今自分が向いている方位を合わせる)とは合わないものになってしまう。これも、「ひねる」の「対象の回転軸に沿って回転させる」という特徴から説明されるであろう。

つまり、「ひねる」の場合、「回転軸に沿った回転」であることが陽に指定されているのに対して、「ねじる」の場合はそうではないということである。な

お、これは、「ねじる」が回転軸に沿って回転させることを表わさないということの意味するものではない。単に回転軸の有無に関しては中立であるということである。

このことから、さらに、「ねじる」に「無理なことをして、対象物をこわすほどの力を加える」という特徴があるようにみえることも説明ができる。「ねじる」は必ずしも回転軸に沿った回転ではない、つまり本来の動きではないので、結果的に対象に無理な力が加わることが多いのである。先の(45)の例も、「金属キャップ」を開ける際に「瓶の口のガラスが欠ける」ということは、どこかがひっかかるなど、回転軸が完全に機能していないということであろう。また、ペットボトルなどのキャップのように、最初の開栓時に「ねじ切る」必要があるものも、同様に「ねじ切る」までは回転軸が完全に機能していないと考えられる。

なお、柴田(編)(1976)は、2.で示したように、「ねじる」の特徴として「何回もくり返すことがある」というものを挙げている。岩崎(1979:54)も、「「ひねる」が一回転以下なのに対して、「ねじる」には回転数の制限がない」、「基本的には、数回転させるという特徴をもつ」として、回転数の違いから次のような例を説明している。

- (55) a. 水道の蛇口をひねる。
 b. ×水道の蛇口をねじる。
 (56) a. ドアのノブをひねる。
 b. ×ドアのノブをねじる。

しかし、次のように、「ねじる」は必ずしも数回転させるわけではない。

- (57) これらのタービンを設計したのは日立製作所で、羽根車が効率よく回転するよう、一部の羽根をねじって取り付けていた。(毎日06/8/5朝刊)
 (58) 母親は04年11月29日に自宅で二男の右腕をねじって骨折させたとして翌05年1月に逮捕、起訴された。(毎日06/3/1朝刊)

また、次の例の場合、文脈から「蛇口」を数回転させると解釈できるが、「ひねる」が使われ、「ねじる」に言い換えることができない。

- (59) a. こうすればいくら蛇口をひねっても、あらかじめ出る量を制限できます。(毎日00/11/7夕刊)
 b. *こうすればいくら蛇口をねじっても、あらかじめ出る量を制限できます。

したがって、回転数による説明は妥当でないと考えられる。

3.3. その他の用例

以上で見てきたような用例自体は、従来なされてきた記述から大きくはずれるようなものではない。これは、新聞が規範意識の高いテキストであり、歴大なデータであっても、「変わった」用例が現れにくいためであると考えられる。一方、Yahoo!知恵袋のような、規範意識の低いテキストの場合、それとは異なる用例が散見される。以下、用例の解釈が問題になるため、一つの書き込み全体を示す。

(60) なぜ、日本人はひねくれた人が多いのですか。意地悪する時も、ストレートに言ったりやったりするのではなく、いろいろとねじってくることが多い。(知恵袋04/12/19 [恋愛相談, 人間関係の悩み])

この用例の場合、「ひねくれた人」などのような文脈からむしろ「ひねった物言い、行いをする」のような意味で使われていると思われる。ただし、この用例は、「日本人は～」というような書き方から、非母語話者によるものである可能性はある。

(61) 確かに、ご遺族に対し可愛そうに思いますが、それとJRのただの雇われ社員に怒りをぶつけるのはどうでしょうか??責任転換ですかね?結局、運転手の責任はJRの上層部にありますが人間性は自身と親にありますよね。いい年した大人の考えや性格まで教育する義務はないとおもいますよ。そこでなぜ尼崎と離れた天王寺の社員の責任が問われるのかわかりません。確か、事故現場は数日警察が検証の為に立ち入り禁止にしてみましたよね。救助隊員は別ですが、単なる社員があそこにおいてどうなるのでしょうか?逆に作業の混乱を避ける為プロに任せる方が懸命だったとおもいます。マスコミはその事実をすべてねじって放送するには慣れているのですが、その他の社員の方にも家族が人生があること…理解して放送してもらいたいです。(知恵袋05/05/06 [事件, 事故, 流行])

この場合、「ねじって」を「ねじ曲げて」と言い換えても、文意が通ることから、そのような意味で用いられていると考えられる。

それぞれ、用例はこの1例のみであるため、今後、このような用法が一般化するとはただちには言えないが、本来、「ひねる」に対して、「ねじる」は抽象的、比喩的な用法がないという特徴があるが、これらの用例は抽象的、比喩的な用例であるということが興味深い。

また、「ねじる」には、次のような用例もみられる。

- (62) ねじったからペカる確率があがるのではなくて、何も考えずに消化するよりも、ネジリ目が出たときにグリグリネジって、えいっ！と離れたときに光ったほうが気持ちがいいです。ほかの人は知りませんが、自分はこの理由でネジってます。オカルトを信じてねじっている人も多いとは思いますが楽しみ方の一つかと（知恵袋05/09/05 [ギャンブル]）
- (63) よくねじっている人がいますよね～おっあいつキャシーだって思いますけど本当に意味がなるのならBB99連しますよね～遊び程度にやるのならかまわないですが真剣にやられると見ててつらいです。（知恵袋05/03/17 [ギャンブル]）

この用例は、「ジャグラー」というパチスロ（パチンコ店のスロットマシン）の操作に関するものであり、一種の専門語と考えられる。この「ねじる」は、ジャグラーの第3ボタンを「ねじる」ようにして押し込む動作を表している。ボタンは押す動作がなされるだけで、回転運動を伴うわけではないが、指の動作は回転運動を伴うという点で、「ねじる」の本来の用法が拡張して（意味特徴が抑圧されて）用いられたものと考えられる。

毎日新聞と比べて、Yahoo!知恵袋を見た場合、興味深い点がさらにある。注1に示したように、今回採集された用例は、毎日新聞で「ねじる」が49例、「ひねる」が428例、Yahoo!知恵袋で「ねじる」が409例、「ひねる」が968例である。相対的に「ひねる」の用例が多いのは、第一には、「ねじる」より「ひねる」の方が用法が多い、特に抽象的、比喩的用法を持つということによると考えられる。実際、「首をひねる」のような用例は多い。しかしながら、毎日新聞においては、「ねじる」の用例数が「ひねる」の用例数の1割強にすぎないのに対して、Yahoo!知恵袋においては、4割強も存在する。これは、このような基本的な動詞であっても、テキスト（のジャンル）によって、いかに出現率がかわるかということを示していると言える。用例の違いを細かく検討する必要はあるが、目立った違いの一つとして、次のような「髪」をヲ格にとった用例が毎日新聞には見られず、Yahoo!知恵袋に多く見られたことがある。

- (64) ポンパドールですかね？前髪を取ってねじって後ろにもって行ってちょっと手前に押して軽くふくらましてからピンで留めれば出来ますよ。前髪が決まらない時には重宝します。ごめんなさい。サイトはわかりません。（知恵袋05/01/11 [ファッション]）
- (65) デジタルパーマなので髪を乾かす時に髪をねじって乾かすだけで巻髪になってます。（知恵袋05/03/16 [コスメ, 美容]）

質問のカテゴリに見られるように、新聞との話題の違いによるものとも考えられるが、コーパスを利用する際、コーパス、ジャンルの違いを考慮せず、個々の語の出現率を問題にする危険性を示していると言えるだろう。

4. おわりに

本稿では、新聞などの用例をもとに、「ねじる」と「ひねる」の用法、意味を分析、記述した。これは、便宜的にまとめると次のようになる。

「ねじる」：対象に意図的に力を加え、回転させる。

「ひねる」：対象の回転軸に沿って回転させる。

本稿は、特に定量的分析を目的としたものではなく、それぞれの用法を見るにあたって、用例数を示すことはしなかった。その大まかな傾向を示すにとどめ、むしろ、従来、類義語のペアの一方が用いられるとされるものでも、他方が使われた用例が（わずかでも）存在することや、従来、示されている用法が実際には（ほとんど）見られないことなどを考慮した上で、それぞれの語の意味の記述を検討した。内省によるデータとコーパスによるデータは、必ずしも一致しないものであり、このような手法の妥当性は、さらに検証される必要はある。

また、Yahoo!知恵袋においては、従来の記述にはみられない、「ねじる」の抽象的、比喩的用法がいくつかみられた。これは、数例であり、一つの用法としていずれ定着するものとは必ずしも言いがたいが、このような事実から一般論として、歴大な規範意識の低いテキストを用いることによって、新しい用法の萌芽を見出すことができるのではないかと考えられる。

注

* 本稿は、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発」（研究代表者：田野村忠温、課題番号：18061004）による研究の一部である。

1 Yahoo!知恵袋は、Yahoo! JAPANが運営するインターネット上の掲示板で、利用者が掲示板で質問をし、他の利用者が回答するという形をとるものである。用例で [] 内に示したものは、Yahoo!知恵袋における質問のカテゴリを示す。

それぞれのデータは、テキスト部分のみで、毎日新聞が約8億文字から、Yahoo!知恵袋が約15億文字から成る。

以下で示す用例は、それぞれの動詞のテ形「ねじって」「ひねって」を採集したものである。なお、漢字表記のものは、常用漢字外であるため、新聞では基本的

に用いられないこと、2.で示す辞書の表記欄にもあるように、「ねじる」「ひねる」とも「捻る」と表記されることがあることから、ひらがな表記のものに限った。採集した用例は、毎日新聞で「ねじる」が49例、「ひねる」が428例、Yahoo!知恵袋で「ねじる」が409例、「ひねる」が968例である。本稿で用いる2種類のデータは、後述のように性格の異なるものであるが、全体として代表性を持つものであるとは言えない。この点で、本稿では、「コーパス」という用語を広義の意味で用いていることになる (cf. 杉本 (2005))。

- 2 「首」「手」「腕」「足」「体 (身体)」をヲ格にとるものを検索した。
- 3 なお、もともと「ひねる」の用例自体が多いこともあるが、このようなヲ格をとる「ひねる」は多数見られる。

参考文献

- 岩崎正枝 (1979) 「ひねる・ねじる」, 『日本語研究』 2, pp. 53-54, 東京都立大学
 柴田 武 (編) (1976) 『ことばの意味』, 平凡社
 杉本 武 (2005) 「コーパスを使った文法研究」今井雅晴 (編) 『中国・大連の筑波大学—日本語・日本文化学類の出張講義—世界の中の筑波大学 1』, pp. 148-176, 筑波大学
 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』, 秀英出版
 森田良行 (1977) 『基礎日本語』, 角川書店

辞書

北原保雄 (編) (2002) 『明鏡 国語辞典』, 大修館書店

用例出典

『CD-毎日新聞』1993年版～2002年版, 日外アソシエーツ
 Yahoo!知恵袋 (『現代日本語書き言葉均衡コーパス (国立国語研究所) のためにヤフー株式会社より提供された評価用データを使用)